

「防犯教育指導者研修会」報告

教諭 打 矢 泰 之

1. 研修会の概要

- 目 的 学校や通学路等における犯罪被害の未然防止と幼児児童生徒の安全な学校生活を保障するため、指導者に対して学校の安全教育・安全管理等についての研修を行い、防犯教育の充実を図ることを目的とする。
- 主 催 文部科学省 秋田県教育委員会
- 日 時 平成24年7月17日（火） 午前10時～午後4時
- 会 場 秋田県総合教育センター
- 対象者 幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の教員

2. 講義・演習の概要

講義1 「自分で命を守ることでできる子どもを育てるための防犯教育の工夫について」

兵庫教育大学大学院 学校心理・発達健康教育コース 西岡 伸紀 教授

この講義では防犯対策と防犯教育の2点がテーマとなった。防犯対策では、児童生徒の犯罪被害の実態を把握したうえで、多面的な防犯対策のありかたを学んだ。学校側の危機管理としては、事前・発生時・事後の三段階での備えが必要となる。そこで提示されたのが、事件・事故の発生段階と要因に注目した多面的対策（ハaddon・マトリックス）である。これは、それぞれの発生段階において、主体・発生源・物理的環境・社会的環境の4つの面から要因や対策を分析し、多面的な防犯対策を目指すモデルである。

防犯教育は、学校の教育活動全体を通じて行われるものである。対処としては、危険予測と意志決定が必要となる。意志決定では、自分で決断しなければならない場面を設定し、そこで最善の選択をする（後半の演習で体験した）。危機回避の行動は頭で分かっているとしても行動に移すことは難しく、適切な段階を踏んだ訓練が欠かせないと感じた。

この他の対策として現在小学校では地域安全マップの作成が広く行われている。また、家庭での指導も重要な役割を果たす。ただし、自宅周辺、通学路やその周辺の実態は各家庭によって異なるため、家庭では実態を踏まえた指導が必要であるし、警察の発表するデータ等も危険箇所チェックの参考になると思われる。

講義2 「子どもが被害にあった事件の事例と危険回避のポイントについて」

秋田県警察本部生活安全部少年課 俣田 覚 課長補佐

この講義では、全国並びに秋田県で子どもが被害にあった事例を踏まえ、危険回避のポイントについて学んだ。

全国の被害件数のなかで、未成年者が被害者となった事例が約20%となっている。そのうち40%以上は子どもが被害者であることは、教職員としても知っておくべき現実だと感じた。子どもの被害では、窃盗や暴行が多く、場所は駐車（輪）場や道路上が多い。被害事例から分かる危険箇所は、①通学路では、人通りが少ない、昼間も暗い、隠れやすい、周りから見えにくい、夜に明かりが少ない場所が多い。②その他では、密室になるところ、駐車場・駐輪場、空き家・空き店舗、マンションや団地の屋上・階段・

踊り場・エレベーター、公園や空き地などが挙げられる。

被害を防止するためには、前兆事案の把握や分析・共有が欠かせない。平成23年の秋田県のデータでは、子どもに対する前兆事案は213件となっており、前年よりも増加している。発生した曜日でみると、平日が多く、時間帯は午後が大半を占めており、子どもの下校時間に多くの事案が発生していることが分かった。また、発生場所は道路が半数以上、被害者の年齢は13歳以上が多く、女子が80%を占めている。

この講義では、子どもの被害だけでなく、青少年の非行についてもデータが示された。秋田県では非行の件数は減っているものの、小中学生の万引きの増加、非行の低年齢化がみられる。深夜徘徊や飲酒・喫煙の件数も増加し、性犯罪や携帯電話にからむ事案も起きており、状況が都市部と変わらないことは驚きであった。

演習 「具体的場面を想定した防犯教育の工夫について」

部会2 「中学校・高等学校部会」

兵庫教育大学大学院 学校心理・発達健康教育コース 西岡 伸紀 教授

研修会の最後は、子どもの意志決定について具体的場面を想定し、グループでブレインストーミングを進めながら意志決定のステップを体験した。

まずグループでは、犯罪被害につながりやすい状況について、犯罪がおこる可能性や起きた場合の被害の大きさを分けたモデルを作り、そのうえで具体的場面をもとにして意志決定のステップを作った。ここでは、「夏祭りの帰りに友人から誘われた場面」をもとに、どのような意志決定が可能かどうか、それについてどのような結果が予想されるかをまとめた。先行きが不透明な場合の意志決定では、明確に拒否することが最もシンプルで効果が高い。ただし、友人との人間関係が悪化してもいいのか、ちょっとだけなら遊びに行ってもいいのではないかなど心理的な葛藤も生じてくる。この例とは違う場面であっても、悪のレパトリーは多用であり、子どもが簡単に拒否することは難しいだろう。

今回体験したロールプレイは、教室の中で危険な場面をつくって対処方法を考え、スキルを向上させて効果的な対処行動を習得するものである。そのうえで、実際の意志決定の場面では自分の考えを正確に伝えなければいけない。学校での防犯教育は、危険なものだけに注目するのではなく、子どものコミュニケーション能力を育てることも重要であると感じた。